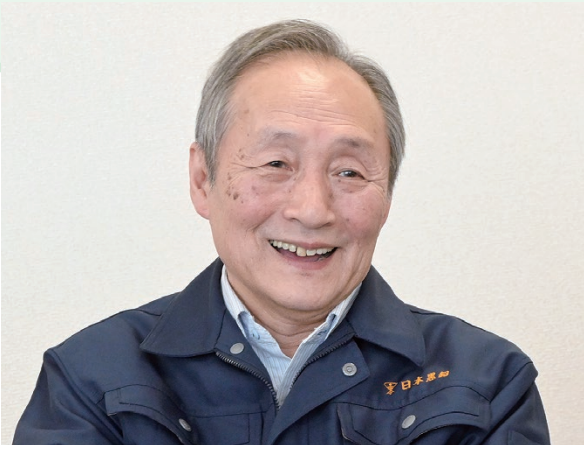
会長訪問



渡邉 頼光 氏

昭和28年生まれ。昭和52年京都産業大学経営学部卒業、同年日本黒鉛工業株式会社に入社。平成12年より現職。黒鉛製煉協議会会長。

モットーは「和と前進」
人々の生活を支える黒鉛の仕事が私の誇りです

大津納税協会 会長
日本黒鉛工業株式会社 代表取締役社長 渡邉（わたなべ） 頼光（よりみつ） 氏

野球観戦でリフレッシュ

――お仕事でお忙しくされているようですが、会長の会社は何の事業をされているのですか。

当社は黒鉛の会社です。黒鉛が持つ潤滑性や導電性、耐酸耐アルカリ性などの優れた特性を生かして、自動車、乾電池、リチウムイオン電池など様々な分野で用いられる粉末や塗料、部品を開発製造しています。身近なものだと、鉛筆の芯は黒鉛そのものですね。黒鉛はなかなか目につかないものではありますが、多様な製品に必要とされ、人々の生活と日本の経済を支えています。そのため、この仕事に誇りを持っています。

ちなみに黒鉛というのはニックネームのようなもので、正式名称は石墨、英語でいうとグラファイトです。よく勘違いされる方がいますが、あくまで炭素の結晶であって、鉛ではありませんので、公害とは無縁のものなんですよ。

――会長の趣味を教えてください。

入社後に草野球を始めて、60歳になるまでずっと続けていました。当社の瀬田工場にグラウンドがあり、そこでよく練習していました。ポジションは主に内野手。キャッチャーを務めることもありましたね。当社のチームは軟式野球連盟に加盟しており、対抗試合にも出ていました。プレーからは引退しましたが、今はもっぱら観戦を楽しんでいます。年に何回かは好きなチームのユニフォームを着て、大阪の京セラドームで応援しているんです。あるとき、ナイター観戦の帰りに納税協会の会員さんとばったり会って、ユニフォーム姿に驚かれたこともありました（笑）。

日本黒鉛工業株式会社

本　　社　滋賀県大津市唐橋町9-22
設　　立　大正８年
資 本 金　9,000万円
事業内容　黒鉛粉末、塑性加工用潤滑・離型剤、導電性塗料の開発・製造、黒鉛加工
拠　　点　本社・石山工場、瀬田工場

全体を考えながら物事を進めていく

――会長の経営観についてお聞かせください。

例えば５つの課題があり、それを100点満点で評価するとします。一方は３つが100点で残り２つが０点。他方は５つ全てが合格ラインぎりぎりの60点。どちらも合計点数は同じ300点ですが、私個人としては、後者の５つ全て60点の方が価値があると考えています。もちろん、何かのエキスパートとしてナンバーワンであるのは良いことですが、他の面で常識を外れているようではいけません。経営について考えるなら、全体的に合格点であることが大切だと思っています。

――モットーとされていることは何ですか。

先代の頃からの社是にある「和と前進」です。人の和なくして企業の発展なし、企業の発展なくして人の和なし。かみ砕いていうと、「仲良くやっていきましょう」という意味ですね。対立していては、発展はありません。この考えは、昭和45年の大阪万博のテーマ「人類の進歩と調和」にならったものです。「和」には様々な意味が込められていますが、社内部署間の「和」もその一つ。当社の社員規模は250名程度なので、私一人で全体を引っ張っていくことは難しく、各部署に任せています。そうすると、皆頑張ってはくれますが、それぞれが自分の部署を中心に考えるものです。そこで社長として、「和」の精神で会社全体のことを考え、その音頭を取ることが私の役割と考えています。

天然黒鉛の鉱石は100％海外からの輸入によるものです。それを製錬し、様々なメーカーさんに製品を提供し、そこから最終製品が世界中に出て行きます。ですから、当社は中小企業であっても世界の一員なのだと強く思います。こうした黒鉛を通じた社会全体との「和」も大切にしなければなりません。

――最後に、納税協会の会長としての課題と抱負をお聞かせください。

多くの納税協会さんが直面しておられることでしょうが、大津納税協会でも会員の増強が課題となっています。そうした中でも、確定申告のお手伝いをしたり、会員の皆さんが興味を持たれるようなテーマの講演会を企画したりと、いろいろな活動を行っています。また、青年部会では小学校の租税教室にも力を入れています。

昨年11月の「税を考える週間」には、デジタル化が進む納税の手続などをＰＲしました。その際は滋賀県のプロバスケットボールチーム「滋賀レイクス」の選手とともにＪＲ大津駅に立ち、活動を盛り上げることができました。

今後も納税協会としての活動に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

――本日はありがとうございました。